

平成29年度  
立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻  
京都市考古資料館合同企画展

# 布と石の考古学入門

期間／平成29年12月12日(火)～平成30年1月21日(日)  
場所／京都市考古資料館 1階特別展示コーナー  
休館日／月曜日(祝日の場合は翌平日)  
年末年始(12月28日～1月3日)  
開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
入館料／無料



主催  
立命館大学文学部考古学・文化遺産専修  
立命館大学環太平洋文明研究センター  
立命館大学文学部「ゼミナール(SA)」  
京都市考古資料館  
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

# 布と石の考古学入門

京都市考古資料館と公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所では、平成23年度から「大学のまち京都・学生のまち京都」の特性を活かし、考古学を身近に学び親しんでいただくとともに大学・高等学校での「研究・教育」の成果を広く紹介することを目的として、合同企画展を開催しています。今年度は立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻、立命館大学環太平洋文明研究センター、立命館大学文学部「ゼミナール(SA)」と合同で企画展を実施いたします。

立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻、立命館大学環太平洋文明研究センター、立命館大学文学部「ゼミナール(SA)」では、現在、研究室で考古学的手法の実践として様々な取り組みを行っています。そのうち2つのテーマについて紹介します。

一つは、縄文の布研究の第一人者である尾関清子氏が復元的に製作された布と服、およびその関連資料を展示し、縄文時代にさかのぼる布を編む技術をわかりやすく解説します。

もう一つは、京都市内出土の墓標のうち、戦国時代から江戸時代の製作年代の明らかな様々な墓石を展示し、京都における中世的な墓標から近世的な墓標への変遷を考えます。

皆様のご来館をお待ちしています。

## 展示内容

### テーマ1 縄文の布と服

縄文の布研究の第一人者である尾関清子氏自らの研究資料を展示します。

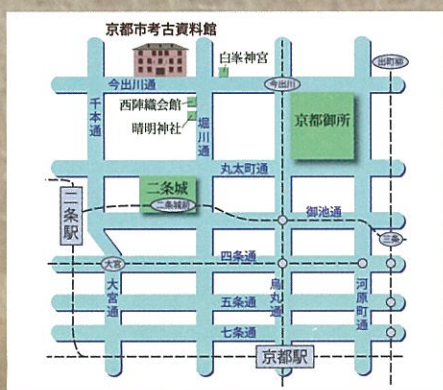
現代まで伝承されている縄文時代と同様の編布(アングイン)技術による様々な布製品も展示します。

主な展示品:縄文時代の布と服(尾関清子氏復元制作)、布圧痕の残る縄文土器土器(複製)、福岡市雀居遺跡出土の原始機(尾関清子氏復元制作)、阿弥衣(復元制作)、越後アングイン創作品(ならんごしの会、越後アングイン伝承会)など

### テーマ2 京都市内出土墓標の展示

京都市内の発掘調査で出土した製作年代の明らかな墓石を墓標と拓本を用いて展示し、その変遷・消長を明らかにします。

主な展示品:豊臣秀次供養塔、キリシタン墓碑、「清明」の石仏、金箔一石五輪塔など



京都市考古資料館

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1

交通/市バス:「今出川大宮」下車すぐ 「堀川今出川」下車西へ2分

TEL:075-432-3245 FAX:075-431-3307

<http://www.kyoto-arc.or.jp/museum>